

## 徳江和雄所員を送る

齋藤 義 則 (当研究所長)

徳江和雄先生は、経済政策論を専門分野として、経済理論を基礎にしつつ、経済史研究と日本の多様な経済問題について、マクロ経済学の視点から研究され業績を上げられました。

私は、経済理論と経済史については全くの門外漢であるため、先生の業績についてコメントすることはご容赦願いますが、先生の研究テーマのキーワードには「政・官・業の癒着」、「内外格差問題」、「バブルの崩壊」、「国家と市民社会」、「財政赤字」があげられており、いずれも地域の総合研究を実施する場合のキーワードとなるものです。

「現場主義」で総合研究に取り組む立場においては、先生が提起されているキーワードが地域社会に具体的にどのような影響を与え、地域社会で改善できることは何か、という実証研究と地域主体の計画研究に重点をおくこととなりますが、グローバルな視点とローカルな視点を如何に統合するかはきわめて重要な論点の一つです。

先生がイギリスの海外研修から帰国された後、本研究所に所員申請されたときのことを思い出します。私の記憶では、「イギリスでは現場主義で研究している」といった主旨ではなかったかと思えます。そのとき、私は自分の研究方法を再確認するよい機会を与えて頂いた、と今でも感謝しております。

先生は、退官後の研究ビジョンとして、基礎理論と経済史、経済政策論を統合した「金融グローバリゼーションとの対決」を掲げられています。本研究所においては先生のグローバルな問題意識を引き継ぎ、地域社会における総合研究をさらに推進するよう努める所存であります。

退官後の先生のますますのご研究の進展とご健勝を祈念しつつ、先生が本研究所に残されたご研究を引き継いでまいりますこととお誓いし、送る言葉に代えさせていただきます。